

### 第3回 THE シガパークビジョン検討委員会 議事概要

1. 開催日時：令和8年2月10日（火） 9：30～11：30

2. 開催場所：滋賀県危機管理センター

3. 出席者：上田 洋平（滋賀県立大学地域共生センター）委員  
高木 浩文（公益財団法人 淡海環境保全財団）委員  
辻 祥子（滋賀県シェアリングネイチャー協会）委員  
宮本 麻里（合同会社 LOCO）委員  
岩寄 博論（武蔵野美術大学 造形構想学部）委員  
廣瀬 香織（一般社団法人ママパスポートコミュニティ）委員  
※欠席 福井 亘（京都府立大学 生命環境科学研究科）委員

（敬称略）

4. 議事 (1) 開 会

(2) 議 題

第2回 THE シガパークビジョン検討委員会議事録について 資料-1

公園に関する意見聴取結果について 資料-2

THE シガパークビジョン骨子（案）について 資料-3

(4) 閉 会

5. 議事内容

(1) 第2回 THE シガパークビジョン検討委員会議事録について

事務局より、第2回 THE シガパークビジョン検討委員会の議事録を説明（資料-1）。

(2) 公園に関する意見聴取結果について

事務局より、公園に関する意見聴取結果について説明（資料-2）。

<主な意見>

（委員）年代問わず「散策・散歩」の利用が想像以上に多かった。世界的に長寿な地域（ブルーゾーン）は、山岳地帯など歩く習慣が身近である場所が多い。モビリティ依存で歩く機会が減っている今、公園がそれを担保する役割となると思う。また、子育て期の頻繁利用から中年期にかけて利用が減少し、高齢期に散歩ニーズが再び高まるスマイルカーブ現象がみられる。意識の高い人は散歩をするが、それ以外の人に対して、カフェなどの飲食機能は、利用目的のナッジとして有効で、谷間の年代を底上げする可能性がある。

（委員）私は10代から写真を撮ったり、デッサンしたり、友人と会話する場として公園を利用していた。お金もかからないため、とにかくおしゃべりをしたい10代などにとっては、一つの選択肢としてとてもいい場所だと思う。

(委員) アンケートの結果からも“利用する目的がない”など目的がぼんやりしている印象である。例えば「お花見ミーティング」など、会議室じゃなく空と木陰の下で行う会議などで公園を利用すれば“目的”となる。更に、花などがあると嬉しい。「園活」を推奨していきたい。

(委員) 中学生の子どもに対して、公園に何がほしいか聞くと、芝生とベンチ、携帯が置ける場所だけあれば良いと言う。シートだけ持参してずっとおしゃべりをしている。その背景に琵琶湖や自然の音があり、青春となっている。私自身、子どもと行かなくなってから公園に訪れなくなっているため、目的の作り方を工夫する必要がある。例えば、健康づくりなどタイアップイベントやスポ少の送迎にくる親御さんに利用してもらう工夫などがあれば良い。

(委員) 予定がなくてもたまたま、ついでに、といった利用も考えられる。また「パーケーション」、現代では公園にちょっとした wi-fi があれば仕事ができる。“公園をどうするか”、が“公園でどうするか”、へつながっていく。

(委員) 先ほども発言がったように、利用者の世代に偏りがあるので、すべての年代が利用したいと思う、仕組み、仕掛けづくりが必要である。

公園には、遊具が充実している、景観がよい、スポーツ施設など、それぞれの特徴があるため、特徴別にグルーピングして分析するのも有用である。ただ、ビジョンは個別の公園ではなく全体にかかるので結び付けは難しいと思うが。

(事務局) 理念としては、県全体が公園なので、個別の公園が各ゾーンとなるイメージである。例えばウォーキングしたい人にはこの公園どうか、など市町の公園を含めて利用の提案ができる仕組みをつくりたいと考えている。人生の様々なシーンで、ひとつの公園だけではなく、いろんな特徴のある公園と関わっている、それが THE シガパークといえる。

(委員) 少数意見も取りこぼさないようにしたい。目的がなくても行ける、中年男性（おっさん）が一人でも様になる、などいろんな人がいろんな理由でいられるというのが理想。そしてアクセスやコスト、フィジカル面のなどの課題がある。例えば移動システムとのタイアップで公園から公園をつなぐなどは、新たな移動手段として面白いのではないか。

また、円滑に園活していくというパーケーション。Wi-fi が通っているとちょっと仕事して、ということが可能となる。こういった公園の可能性が現代では出てきている。賑わいというのは、単にその数だけではなくて、人数と滞在時間ということを考えると、女子高生が何時間もいるというのも、公園の賑わいの一つかなと思う。

### (3) THE シガパークビジョン骨子（案）について

事務局より、THE シガパークビジョン骨子（案）について説明（資料-3）。

<主な意見>

(委員) THE シガパークの定義であるが、「一つの大きな公園となった姿」を言うのか、庁内検討時の定義は、「県の公園全体の魅力向上を図る取組」であった

はずで、この方が個別の公園の名称も不要でわかりやすいと思うが。

(事務局) ハードではなく使われる仕組み、究極の“姿”を目標としている。また、THE シガパークは全体の名称で、個別の公園の呼び方について意見をいただきたい。

(委員) 「公園ネットワーク」「パークネットワーク」で構成される THE シガパーク。というのはどうか。

(委員) ひとつの公園を呼ぶときは何と呼ぶか。

(委員) 「〇〇公園」という公園名称、パークネットワーク、THE シガパーク、という3段階が良いのではないか。

(委員) 「メンバー」「ピース」はどうか。

(委員) 「パーク(チーム)メンバー〇〇公園」など暮らす人達がわかりやすい名称がいいと思う。メンバーに入らなくては、と思ってもらえそう。

(委員) 「Be パーク」「Go パーク」など意識を統一するというキャッチコピー的なものでも良いと思う。

(事務局) ご意見を参考に、引き続き検討していきたい。

(委員) 民間活用を進めるとあるが、民間が公園で何ができるのか、民間に対してのアピールがあまりされていないため、取り組んでほしい。

(事務局) 「使う」「支える」という2本の柱で、公園でこういうことができるという企業との対話をはじめているところである。

(委員) アンケート結果からも飲食店などへの意識が高いことがわかる。これに対して具体的にどう取り組むかが書いていない。近隣の飲食店との連携、ケータリングサービスをアプリでつなぐなど考えてはどうか。

(事務局) 飲食店などとのタイアップも検討していく。

(委員) 10年後には公園へドローンで配達することが実現しているかもしれない。

(委員) 基本理念の“自然も健康になる”という発想は、滋賀らしく、また未来的(モア・ザン・ヒューマン)でとてもいいと思う。THE シガパークの目指す姿は、“人と暮らしと心、自然が健やかになる”、基本理念は、“互いに・・・”の前に「公園が」と入れてほしい。また、自然・生き物の生き物は自然に含めて良いと思う。

(事務局) アンケートの結果を見ても、やはり自然あつての滋賀県だと実感したところである。

(委員) ここでは「結ぶ」となっているが、基本理念にある「つなぐ」役割は、「公園が」人と自然・生き物と地域をつなぎ、三方を健康にする、その公園を次世代に継承することが基本理念だと考える。したがって、「公園がそれらをつなぐ役割を果たす」ということが分かりやすい表現にしていきたいと思います。

(委員) 公園は人間よりも虫や植物の方が多いが、人間中心の施策ばかりである。人間以外にもたくさんの生き物が存在していることを感じてもらえるような

場所になるといい。

(委 員) 今後イメージ図では、ペルソナのように各年代の多様な人、その中に多様な生き物も入れて可視化していく必要がある。

(委 員) 生き物ペルソナをつくるといいだろう。コンセプトがイメージ的であるため、イメージ図はとても重要である。

(事 務 局) ペルソナを入れて、すべての人が自分ごとと思ってもらえるようなビジュアルにしたい。複数のペルソナが必要で、一枚のイメージ図では収まらないかもしれない。また、上田先生の絵屏風に期待している。

(委 員) 公園は、人材育成の場でもある。我々は公園で育ち、公園を育てる人、としての価値を明示してもらいたい。

(事 務 局) 人材育成の視点も入れていきたい。

(委 員) 2.2 (2) の利用者目線の箇所には、障がい者の目線、ユニバーサルデザインやインクルーシブデザインなどの言葉も入れてほしい。

また、基本理念の「地域コミュニティ」は、市町が見たときに自治会やまちづくり協議会などを指しているように誤解されるのではないか。「地域のコミュニティ」や「地域の市民活動団体等」にするなど、工夫が必要ではないか。

(事 務 局) 自治会では狭く、そこに限定したくないと思っている。想いは共通であるため、今後ネーミングについては考えていきたい。

(委 員) 目指すものが「姿」なので、イメージ図が大切になる。体験価値を向上させることが重要である。THE シガパークは横断的な取組であるからこそ、システム思考で考えていくべきである。この THE シガパークの取り組みは、Amazon のフライホイール効果と似ている。トイレ良くなると利用者が満足し、利用が増える。利用が増えると売り手が増える。売り手が増えると利用者の選択肢が増える。利用者の選択肢が増えると満足度が UP して利用が増える。いかに来場者の体験満足度を上げるかが課題である。

(事 務 局) Amazon の顧客満足度は売上でわかるが、公園はどうして計ったら良いか。

(委 員) アンケート調査を行うのがいいと思う。

以上